



福祉施設対策委員会 ニューズ

No2012-02
2012年
11月1日



武蔵野赤十字保育園

当保育園は、緑多い住宅地にあつて、市内保育園の中でも一番広い園庭を持ち、園庭の傍らには開園当時に植えられたといわれるケヤキの木が大きくそびえ立ち、今も昔も日々子供達の成長を見守っているかのようです。

10月14日(日)には、秋恒例の運動会が今年も大勢の保護者が参加の中開催されました。乳児の親子競技に幼児クラスのリズム遊びや仲間との集団競技、そして何といても毎年運動会の中で一番の盛り上がりを見せるのが、「年長クラスのタイヤ取りゲーム」や「紅白リレー」は注目の的。接戦に次ぐ接戦に、観客は手に汗握りながらの応援と、ゲームの勝敗に涙する子供達の姿や精一杯頑張る姿に、みんなの心が一つになった秋の一日でした。



そして、保育園組合では、より良い保育を進めるためには、働きやすい職場であることが大切であり、職場改善を目指し、アンケートを基に団交で率直な声を訴えています。が、一歩進んで二歩後退の状態です。

現在国が推し進めている子ども子育て新システムは、はたして子どもたち一人ひとりの発達を保障するものでしょうか。今後の動向に目を向け、今年も署名活動を通し、声を上げていかなければなりません。

子ども子育て新システムの現状

子ども子育て新システムは、様々な問題が指摘されながらも、今年8月、民自公により衆院で可決されました。新システムには、保育料の値上がりや保育の質低下、民間企業参入による保育の営利化等多くの問題があります。

これまで新システム反対運動により、当初案からは僅かながら修正されましたが、それでも新システムが問題であることに変わりはありません。

しかし新システムの試行は2015年からであり、今後の署名活動等によって新システム反対の世論を作る事により流れを変えること出来ます。

そのためにも、新システム反対運動に全力を挙げて取り組んでいくことが望まれています。